

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

No.627

★こどもの読書週間 開催要項(2・3頁)

★「伊藤忠記念財団子ども文庫助成」応募要項(4頁)

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる



朝読書で文学作品以外を読んで なにが悪い!

「こどもの読書週間」によせて

合同会社エンゼル代表社員社長
『こども六法』(弘文堂)著者

やまざき せういちろう
山崎 聡一郎

「いまだごきの若者は」とくれば、あとに続くのはネガティブなことばになるというのが定型です。私は「ゆとり教育世代」と呼ばれ、蔑まれて育ちましたが、聞けば私が学生時代に師事した教授のひとり「僕たちもバブル世代は」と言われて育った」なんて体験談を語ってくださいました。子どもは大人よりも先の時代を生きていくもの、必然的に価値観や常識が異なります。そんな子どもたちの「異質さ」を「未熟さ」に置き換えてこき下ろすのは、いつの時代も変わらないのかもしれませんが、そして大人はそんな子どもたちを「教育」するために様々な知識を押しつけます。本もそのひとつです。読むべき文学の名作は山のようにあり、

それらにふれずに育つと「教育養がない」などと罵られます。読書は主体的な習慣であり、好奇心に応える知的活動のひとつですが、子どもたちを取り巻く読書環境は自由に見せかけて「こんな本を読め」という大人からの無言の圧力に満ちた不自由極まりないものになってはいないでしょうか。多くの人が「押し付けられたもの」として「法」を嫌うのと同じように「読書」を遠ざけ、出版業界全体の低迷に繋がるといふギャグのような帰結をもたらしています。昨年には国際学習到達度調査(PISA)における日本の「読解力」が過去最低となつたというニュースがありました。今や本など読まなくても、テレビにゲームにSNSな

ど、娯楽は無限に存在します。漫画やライトノベルを好んでいれば語彙は増えていきますが、それらをこき下ろして文学を押しつけた結果、そもそも読書文化自体が廃れ、あらゆる語彙が「ヤバイ」に集約された若者が量産されていったのではないのでしょうか。一方で私が子どものころに知りたかった「法律」という知識を、大人はだれも授けてくれませんでした。しかし「逮捕」「懲役」といった法律用語は日常的に耳に入ります。「意味はわからないがことばは知っている」という語彙に純粋な好奇心を向ける子どもは少なくないというのが私の考えでした。そして彼らが日常的に遊んでいるカードゲームの文章のなんと難解なこと

か。子どもたちは読解力がなないのでなく、興味がないから本を読まないのです。むしろ大人より遙かに好奇心旺盛な子どもたちは興味さえ持たせることができれば難解な本でも読み進めます。子どもの底力はこういうところにある、その力を信じた本が『こども六法』でした。いま『こども六法』は、子どもたちに「読みたい本」として選ばれています。自身は決して簡単ではないにも拘らず、です。子どもたちは「愛」と「エゴ」の違いに非常に敏感です。子どもを愛し、信じ、結果的に過度に易しくしなかつた小著が子どもたちに受け入れられた事実を鑑みると、読書の奨め方もあるべき方針が見えてくるように思います。読書は自己実現の「手段」であり、「読むべき本」などというもの、本当は存在しないのではないのか。そして「それでも読みたい本」と出会い、向きあう経験こそ、人生を豊かにしていく読書のあり方なのではないかと思うのです。



もうすぐ

2020・第62回 子どもの読書週間 4/23～5/12

「びびりきりの1冊」を子どもたちへ！

公益社団法人 読書推進運動協議会は3月中旬、「2020・第62回子どもの読書週間」を開催するにあたっての協力をお願いを、全国の読書推進運動協議会、公共図書館、報道機関、関係者などのみなさんにお送りいたします。

当協議会のホームページでは、ポスターとマーク、標語をあしらったロゴ(タイトル)のJPEGデータを掲載しております。マークはイラストレーターファイルもダウンロード可能です。今後、3月中には、ポップやしおり、ブックカバーのPDFデータも掲載します。告知や飾りつけなど、幅広くご利用ください。

今回の標語は1647点の応募作から選ばれた「出会えたね。とびつきの1冊に。」「大人になつたいま、『あ、この絵覚えてる』『このお話はこうだったなあ』と思ひ出す本に、たくさん出会います。大人になつても思ひ出せる『とびつきの素敵な本』に、たくさん出会つてほしいという思ひを込めました」と、作者の阿見信子さ

は標語にこめた思ひを語ってくれました。

今年もポスターは荒井良二さんの絵と、杉浦康平さんのデザインで制作。絵は絵本『ユックリとジョジョニ』(ほるぷ出版)から杉浦さんを選びました。「とびつきの1冊」に出会えたいしさが伝わってくるポスターとなっております。

ポスターは、3月中旬以降順次、公共図書館(都道府県立図書館へ送付)、学校図書館(全国学校図書館協議会を通じて送付)、書店(日本出版取次協会を通じて送付)読書推進運動協議会会員、後援団体、関係団体などへお送りします。残部もごいいますので、希望者は事務局までお申しつけください。

3月現在、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、全国的に学校の休校、図書館など公共施設の休館、行事・イベントの中止・縮小の措置がとられています。状況が日々変化するなかで、公共図書館、学校図書館、書店や、子どもたちへ本を手渡すボランティア

のみなさんは、対応に苦慮されていることと思います。こんなときだからこそ、子どもたちには「とびつきの1冊」に出会つてほしい。この事態が早く収束し、「子どもの読書週間」が子どもたちと子どもと本に関わるみなさんが笑顔となるきっかけとなることを、祈っております。

【読書推進運動協議会 事務局】
TEL 03-52244-5270
FAX 03-52244-5271
E-mail info@dokusyo.or.jp
(ドメインは「dokusyo」ではなく「dokusyo」です。)注意く
ださい)
ホームページ
<http://www.dokusyo.or.jp>



身体を動かしながらのおおなし会
(2019年 滋賀県草津市)

2020・第62回「子どもの読書週間」開催についてのお知らせ

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の春の行事「子どもの読書週間」を、本年も主催いたします。

3月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国各地の行事・イベントの中止、学校の休校、図書館をはじめとする公共文化施設の休館などの措置がとられています。不透明な状況ではありますが、不安を抱える子どもたちを見守り、寄りそうためにも、家庭・地域における子どもの読書推進は重要です。事態の早い収束を祈り、現場の許す範囲でのご協力をお願い申し上げます。

今年の標語は『出会ええね。とびっきりの1冊に。』です。期間中、関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、次の世代を担う子どもたちにとって、どんなに大切であるかはいまさら申し上げるまでもありません。本を読み、読んで考え、考えて行動する子どもたちが育つならば、青少年に関する多くの問題点も解決されるのではないのでしょうか。

「子どもの読書週間」は子どもたちに、よい本やよい雑誌に親しむことをすすめ、読書の楽しみや喜びを知らせ、正しい読書の習慣を身につけてもらう好機です。そして同時に大人にとっては、子どもの読書がいかに大切なことか、よい本や雑誌を手渡すためにはどういう努力をしたらよいか、ということについて考える機会でもあるといえましょう。

公益社団法人 読書推進運動協議会では「子どもの読書週間」のテーマとして『家庭・地域読書のすすめ』をとりあげ、「家庭・地域に子ども文庫をつくらう」「親子読書を育てよう」など、家庭・地域における、子どもの読書推進に力をそそいできました。

家庭における読書環境の整備は、以下の3点がたいへん重要です。(1)幼児には父母が本を読んで聞か

せてあげる。

(2)子どもたちの身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことをすすめ、本を読むのを聞いてあげる。

(3)そして大切なことは、父母みずからが読書する姿を、子どもたちの眼にふれさせる。やがて、そこに本を中心とした話題が生まれ、親子の対話に発展することは明らかです。

地域の公共図書館、公民館、PTA、学校図書館、子ども文庫・地域文庫のボランティアなどによる、子どもたちへの読書指導、読書普及活動、これらががちり手を組んでいくならば、正しい判断力のもとに行動できる青少年の育成に、貢献できることを確信しています。

なお、2001年12月12日に公布されました「子どもの読書活動推進法」により、「子どもの読書週間」の始まりの日である4月23日が、「子どもの読書の日」と制定されております。「子どもの

読書週間」とともに、「子どもの読書の日」もおおいに広めていただきたいと思っております。

名称 2020・第62回
子どもの読書週間
主催 公益社団法人
読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版次協会、日本図書館協会、全国学校図書館協議会、日本書店商業組合連合会

後援 文部科学省、日本新聞協会、NHK、日本民間放送連盟、日本PTA全国協議会、全国市町村教育委員会連合会

期間 4月23日(木)から5月12日(火)まで

標語 出会ええね。とびっきりの1冊に。

《行事内容》

●ポスターおよび広報文書配布

(公共図書館、全国小・中・高等学校図書館、有力書店、関係出版社、報道機関など)

●その他、都道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進
《各機関へお願いの行事内容》
*無理のない範囲で
「ご協力ください」

●公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「子どもの読書研究会」「子ども読書のつどい」「親子の読書会」「大人による子どもの本研究会」「子どもの読書相談」「児童図書展示会」「児童文学作家による講演会」「児童図書出版社との懇談会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

●都道府県の読書推進運動協議会による都・道・府・県単位の「子ども読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施



昨年「平成の本」を振りかえる展示も (2019年 福井県池田町)

伊藤忠記念財団・2020年度

子ども文庫助成事業

贈呈先候補募集について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、1975年以来、公益財団法人 伊藤忠記念財団(理事長・小林栄三) 主宰の「子ども文庫助成事業」に賛同し、毎年、助成贈呈先の案件募集の告知と応募の受付を行っています。各道府県の読書推進運動協議会、全国の公共図書館をはじめ、ご協力をお願いする機関のみならず、文庫や実演活動をされている個人・団体へご喧伝のほどをお願いいたします。

○実施要領(抄)

1、助成の対象

子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行っている民間のグループまたは個人、およびボランティア団体。

(I)子どもの本購入費助成(購入費助成) Ⅱ子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会などのボランティア団体など。

(II)病院・施設子ども読書活動費助成(病院・施設活動費助成) Ⅱ小児病棟、障がい児施設、養護施設などの子どもたちに対し、読書活動を行っているボランティア団体および非営利団体など。

(III)子どもの本100冊助成(100冊助成) Ⅱ購入費助成、病院・施設活動費助成の対象者と共通。

2、助成の概要

(I)購入費助成Ⅱ一律30万円を助成。(A)Bのプログラムよりひとつを選択。(A)児童書・絵本などの書籍

紙芝居、人形劇、パネルシアターなどの購入に15万円以上使用すること。その他の費用(講習会の開催費・参加費、書架・ブックコー

トフィルムなどの購入費、紙芝居・パネルシアターの舞台など備品購入費)は15万円まで。(B)伊藤忠記念財団が指定する「指定研修会

」の参加費、または交通費・宿泊代、出張講師派遣の講師謝礼・講師交通費・会場費などに全額を充当。「指定研修会」は応募要項を参照。

(II)病院・施設活動費助成Ⅱ(A)に加え、障がいがある子どもたちに対する読書支援機器などの購入、および図書作成のための費用とし

て一律30万円を助成。

(III)100冊助成Ⅱ伊藤忠記念財団が選書した「小学校低学年向けセット」「小学校中学年向けセット」「小学校高学年向けセット」(各セット

100冊、約15万円相当)のうち、希望する1セットを贈呈。助成を希望するセットの100冊のうち最大40

冊までを、ほかの学年向け図書セットと、2000年以降に出版された図書を中心とする150冊の図書リストから選んだ本と入れ替えることが可能。

3、応募選択Ⅱ助成のなかのいずれかひとつを選択。

4、応募資格 (I)購入費助成(II)病院・施設活動費助成Ⅱ3年以上の活動実績があり、今後も継続した活動が期待できること。

(III)100冊助成Ⅱすでに読書啓発活動を行っていること。ただし、活動の長さは不問。

※(I)(II)ともに、以前に子ども文庫助成を受けている場合は、2017年度以前の受領団体・者が再応募可能。

※営利法人、公共機関は応募不可。

5、助成先決定までの流れ

(1)公益社団法人 読書推進運動協議会による応募受付。

(2)公益財団法人 伊藤忠記念財団

職員による現地訪問(購入費助成、病院・施設活動費助成の国内応募者を予定)。

(3)選考委員会で助成先候補者を選考。

(4)伊藤忠記念財団理事会において助成先対象者を決定(12月中旬)。

6、決定の通知Ⅱすべての応募者に、結果を書面にて通知します。

●応募書類の提出締切日 2020年6月20日(消印有効)

●応募書類の提出(送付)先 〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町1-32 出版クラブビル6F

●伊藤忠記念財団

https://www.itsuzaidan.or.jp/

●読書推進運動協議会

http://www.dokushyo.or.jp

(3月下旬掲載予定)

子ども文庫功労賞

公益財団法人 伊藤忠記念財団

では、「子ども文庫助成事業」の一環として、「子ども文庫功労賞」を設けて、子ども文庫の普及に貢献されてきた方を顕彰している。

○実施要領(抄)

1、授賞の対象者Ⅱ永年にわたり(20年以上)子ども文庫を運営されてきた個人で、子どもの読書啓発活動に貢献されてきた方。推薦は他薦にかぎる。

2、賞の内容Ⅱ賞状、副賞(30万円および記念品)

3、推薦方法Ⅱ候補者推薦書と候補者の活動の様子がわかる資料(機関誌、会報、新聞記事など)を送ること。

4、選考方法Ⅱ (1)選考委員会で候補者を選考。

(2)伊藤忠記念財団理事会において受賞者を決定(12月中旬)。

5、決定の通知Ⅱすべての推薦者および受賞者に、結果を書面にて通知。

●推薦書類の提出締切日 2020年6月20日(消印有効)

●推薦書類の提出(送付)先 〒107-0061 東京都港区北青山2-15-1 公益財団法人 伊藤忠記念財団 助成事業部

Tel. 03-3497-2651



■「子どもの読書推進会議」総会

「絵本ワールド」の開催支援と「子ども読書年」20周年記念企画

2月4日(火)、東京都千代田区の出版クラブビルで「子どもの読書推進会議」2019年度第2回総会が開催された。

総会ではまず、「2019年度上半期収支計算書」の説明がなされ、承認を受けた。

続いて、主要事業である「絵本ワールド」の「2019年度事業報告」「2020年度事業計画」、および「上野の森親子ブックフェスタ」の「2019年度事業報告」「2020年度事業計画」が説明され、検討のうえ承認された。

2019年度の「絵本ワールド



昨年の「上野の森親子ブックフェスタ」会場の様子

事業」は徳島・兵庫が新規開催となり、昨年度より2か所増加した。

2020年度も7か所で開催の予定である。「絵本ワールド」の開催支援としては初回開催協力金のほかに、主催者の希望により貸し出している書棚の運搬費を助成しているが、書棚の耐用年数が経過しており、今後の助成の方法を再検討していくこととなった。

また主催団体のひとつとなっている「上野の森親子ブックフェスタ2020」(5月3日〜5日開催予定)については、今回が開催のきっかけとなった「子ども読書年」制定20周年に当たることから、「エアーゲート」の設置・人気作家による記念講演会の開催・告知チラシの作成などの記念企画を実施することとし、その分の拠出金を増額して「子どもの読書推進会議」2020年度予算に計上することが承認された。

このうち、出席した各参加団体より2019年度上半期の活動報告があり、最後に、野間代表による挨拶で閉会となった。

■「青少年読書感想文全国コンクール表彰式」

コンクールを通じて新たな読書の楽しさを発見！

2月7日(金)、東京都千代田区の経団連会館にて「第65回青少年読書感想文全国コンクール表彰式(主催)全国学校図書館協議会/毎日新聞社」が行われた。式には秋篠宮皇嗣同妃殿下が臨席された。

今年の参加校数は2万5579校、応募作品は39万5894点。各都道府県の代表51点より選ばれた最優秀作品、優秀作品などに賞が贈られた。

表彰に先立ち、皇嗣殿下が、子ども向けの物語や偉人伝を楽しんだ幼少期の思い出にふれ、「本



表彰を受ける関口結子さん(写真提供 毎日新聞社)

から得たものを的確に人に伝えることはむずかしいことです。そのことをみなさんが上手に表現されていることに感銘を受けました」と、受賞者へおこぼれを贈られた。

受賞作品の朗読は、『魔女のろいアメ』(PHP研究所)の感想文で、小学校低学年の部最優秀作品を受賞した関口結子さん(千葉県柏市立柏第一小学校2年)。関口さんは、「のろい」ということが気になって辞書で調べてわかったことや主人公の言動に心を重ねて読んだこと、自分で考えたお話の続きまでをまとめた感想文を、ていねいに読みあげた。

本の作者の草野あきこさんは、「みなさんの感想文は最高のレビュー」と感謝、「小学校の先生が『文章が上手』とほめてくれたことが私の心の支えとなりました。みなさんも今日の受賞を支えにしてください」と受賞者へエールを送った。

受賞者代表のことは、小学校中学年の部最優秀作品を受賞した石黒琉翔さん(埼玉県草加市立

谷塚小学校4年)。石黒さんは、「ふだんはミステリーや冒険ものが好き」なので、対象図書「季節のこちそうハチごはん」(ほるぷ出版)は「コンクールがなければ読まなかった」と明かし、「直感や勢いに頼らず、一冊をじっくり読んだのは、はじめて。ぼくの世界を広げてくれたこの本に、ありがとうと言いたいです」と述べた。



「受賞者代表のことは」を述べる石黒琉翔さん(写真提供 毎日新聞社)

今回、高等学校の部最優秀作品を受賞したのは、『自由への長い道』(ネルソン・マンデラ自伝)(日本放送出版協会)の音声D A I S Y版(福島県立図書館作成)を対象図書にした、近藤悠斗さん(筑波大学附属視覚特別支援学校高等部普通科2年)。読書のバリエーションを整える大切さ、それがもたらす可能性も示された。

優良読書グループの歩み (3)

2019年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

館林市立図書館読み聞かせボランティア「にじの会」

代表者 斉藤 仁恵

群馬県館林市

〈推薦〉

群馬県読書推進運動協議会

1994年春、「にじの会」は発足しました。館林市立図書館にて「おはなしと紙芝居」に参加していたボランティアを中心に、「おはなしの世界から子どもたちの心の中に虹の橋をかけよう」との思いから会ははじまりました。

活動は、図書親子とも室にて毎週土曜日午後2時から約30分間。集まった子どもたちに、会員がおのおの選んだ絵本や紙芝居を楽しんでもらっています。現在、会員は18名(男性2名、女性16名)。高校生、学生、保育福祉関係の職についている会員、社会人の男性、主婦と、幅広い世代で構成されています。

土曜日の活動のほかに、図書

館主催のイベントに参加しています。4月の「子ども読書の日」、10月の「図書館フェスティバル」では子ども室を飛び出して、図書館庭の広い芝生の上で自然を味わいながら読み聞かせ。12月の「クリスマス会」は図書館との協働の大イベント。大型紙芝居、エプロンシアター、劇、クリスマスソングの合唱、サンタクロース登場に子どもたちは大興奮。

そのほか、群馬県立館林美術館の依頼で、絵本の読み聞かせを行いました。

会の運営は、会員を4つの班にわけ、土曜日の活動に対応しています。4月の総会では代表などの役員を持ち回りで選出。全員が責任を担ってゆこうという考えからです。10月、11月に定例会。クリスマス会準備と近況報告、情報を共有し、意見交換を行います。年明けて、新年会では会員どうしの親睦を深めます。

活動をとおしての感想①子どもたちの笑顔がうれしい。②集

中してきた子どもたちの瞳が輝いてくる瞬間が好き。③保護者の方たちも一緒に楽しんでる様子うれしい。④世代を越えた会員どうしの交流が新鮮な刺激となり楽しい。

「子どもたちにどんな絵本を選んだらいいの?」という新入会員の問いには、先輩たちの温かなアドバイスありと、新旧会員の交流も活発です。

これからも「子どもたちの心に虹のかけ橋を!」の思いをこめて活動を続けていきたい、おはなしの楽しさを生の声の温かさのせて伝えていきたいと思っています。

いつも、私たちの活動を支援し



会場の飾りも楽しい「クリスマス会」

てくださっている図書館の職員の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

甲良町読書グループ

代表者 辻 トミ江

滋賀県犬上郡甲良町

〈推薦〉

滋賀県読書推進運動協議会

私たちのグループは、1975年に幼児をもつ母親を対象とした家庭教育学級の修了生の有志16名で発足しました。当時は図書館もなく、グループの活動もなにをどう進めたらよいか手さぐりで、とにかく1か月に一度集いましょう、というところからはじめました。会の運営は会長、会計係、連絡係を当番制にして、現在11名で活動しています。

発足当初から滋賀県読書グループ連絡会に加盟し、読む本は、県立図書館に依頼、配本していただき、まわし読みをしておりました。そのうち、読んだ本は手元に置いておきたいということで、希望を聞き、人数分購入することになりました。自分の本なので赤線を入れたり付箋をはったり。集いもにぎやか、年配の本好きな方も加入

会員の個性を活かして一冊一冊を読みとく



してくださり、ますます活気づいてきました。

私たちのグループは、特別な先生をお招きすることなく、「だれが生徒か先生か」という集いで、万葉集をひもといてくださる方、朗読をしてくださる方、行間をみごとに読みといてくださる方など、いろいろな個性豊かな人たちの集いです。お茶を飲み、お菓子をつまみ、ときには本題から離れ、男と女の話、子どものごと、朝ドラ、政治のごとと飛躍し、おしゃべりする、これも楽しみなのです。1999年には待ちに待った、歴史の香りにつつまれた図書館がオープンしました。総検定りの元小学校を活用した、温もりと愛着

のある図書館です。オープン当時、読書グループの代表が祝辞を申しあげたことも印象に残っておりま

す。このころから、読んだ本にちなんで文学散歩をしたらどうかという案が出て、町にお願ひしてマイ

クロパスをお借りすることになりました。春は県外、秋は県内と当

番が企画し、そのときばかりは遠足気分でもんな出席。いま、心に

残る訪問先は、東近江市の蒲生野です。訪問したとき、地元の読書

会のみなさんが、天平時代の扮装で出迎えてくださったことに一同

感動いたしました。いままで読書会以外に取り組ん

できたことは、草の根図書館のお世話をし、本好きな人を増やすこ

と、地域の昔ばなしを古老から聞き取り、「甲良の民話」発行のお

手伝いをしたことです。そのおはなしの中から何点か大型紙芝居も

作成し、高齢者のサロン、子ども会で披露しました。

現在は高齢化により、人数も減り、運営も四苦八苦ですが、図書館員さんの笑顔と親切なサポート、本を借りるときの「ありがと

うございませした」の声に励まされ、図書館を依りどころにしています。

今後も本大好き人間が集い、楽しく自分磨きをしていきたいと思います。

読み聞かせの会「コッコさん」

代表者 山本 和代

宮崎県東諸県郡綾町

宮崎県読書推進運動協議会

〈推薦〉

綾町は日本一広い照葉樹林のある、人口7000人ほどの町です。

2005年「綾てるは図書館」が新設されました。そこで読み聞かせの会を2名で発足しました。

その後、年配の男性や子ども好きの男子大学生も加わりましたが、現在は女性のみ5名です。

メンバーには、高齢者施設で週1回、紙芝居や絵本を読んでいる方があり、お年寄りの楽しみになつています。また、自分が子ども

のころ、絵本が身近なものとして育てられたことから、わが子

にも読み続けている若い方もいます。

絵本によって育まれる色彩感覚や、物語の豊かな情感は、人の成長の糧となることは、間違いない

と目指して、ほかの読み聞かせグループや、民話の「語りへの会

とも話しあつて、月1回学校へ出向き、始業前に20分ほどの読み語

りをはじめて5年目です。中学生に読む絵本は、選書や読み方に苦心

しますが、真剣に聞く態度や反応があり、やりがいと責任を感じ

ています。メンバーのひとりには、長年の読み聞かせ経験がありながら、「子ども

どもの本に親しむ会」にも所属しており、グループのよきリーダーとなつて

います。図書館での「おはなし会」は、月に2回担当なので、グループを

ふたつにわけて読んでいますが、先日は、当番外の方も来て、子ども

たちと一緒に絵本の聞き手として楽しみました。その後の話しあ

いでは、感想やアドバイスが出され、おたがいのスキルアップに役

立ちました。綾町の文化祭では、図書館以外のところでもあり、そこ

では、町民のだけれどもが絵本を楽しむことができます。図書館では、

一年をとおしてさまざまなイベントが行われ、町民が出向きやすいところ

みなさまへ 事務局からのお願い

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止として、政府の要請により、学校をはじめとした公的サー

ビスの縮小と、それにもなる職場環境の変化が求められています。

今後の推移によっては、公益社団法人 読書推進運動協議会事務局でも業務時間の短縮などの措置を取らざるを得ない場合も考

えられます。滞りなく業務を進めるよう、事務局では鋭意努めますが、各種お問い合わせへの対応、各道府県読進協よりご協力をいただ

いております4月号別冊『第73回読書週間行事報告一覧』の発行

などが遅れる可能性がありますこと、ご了承くださいませますよう、

お願い申し上げます。



町の文化の中心、図書館を拠点に活動

日本図書普及財団

贈りものに。お礼、お返しに。

東山魁夷シリーズ
1,000円・3,000円・5,000円 10,000円

読書NEXT

国際子ども図書館 児童書展示会

読むとスポーツがしたくなる？
そんな子どもの本が勢ぞろい

国立国会図書館国際子ども図書館（東京都台東区）では、3月24日（火）～6月28日（日）まで、同館レンガ棟3階本のミュージアムで、展示会「スポーツと子どもの本」を開催する。

国際子ども図書館は、東京オリンピック・パラリンピックを間近に控え、スポーツをテーマとした展示を企画、開催。身体を動かす楽しさを表現した絵本、スポーツ



展示会「スポーツと子どもの本」チラシ

入場は無料。開館時間や休館日、ギャラリートーク開催予定などの詳細は、国際子ども図書館ホームページで確認できる。
●国際子ども図書館
<http://www.kodomo.go.jp>

制定されて10周年！
「しるしる」の記念ロゴも登場



今年の「教科書の日」ポスター

教科書協会は、4月10日の「教科書の日」啓発ポスターを作成し、学校、図書館などに配布、掲出を依頼しています。

4月10日「よい図書の日」を「教科書の日」に制定して10年目の節目となる今年は、公式キャラクター「しるしる」の記念ロゴも作成。学童喜びと未来への期待を、いろいろな表情の「しるしる」が伝えるポスターです。

ポスターの送付希望、「教科書の日」についての詳細は、教科書協会まで。

●教科書協会
<http://www.textbook.or.jp/>

事務局報告（2月）

- ・3日＝国立国会図書館国際子ども図書館「子どもの本と読書に関する懇談会」に出席
- ・3日＝「子どもの読書の日」ポスター出来
- ・4日＝「子どもの読書推進会議」2019年度第2回総会開催
- ・2019年度上半期収支計算書「桜本ワールド」「上野の森親子ブックフェスタ」2019年度事業報告・2020年度事業計画を承認
- ・4日＝「子どもの読書の日」ポスターをよたよたかずひこさんへお届け
- ・7日＝「第65回青少年読書感想文コンクール表彰式」に出席
- ☆7日＝機関紙「読書推進運動」627号入稿
- ☆10日＝機関紙「読書推進運動」627号責了
- ☆14日＝「子どもの読書週間」ポスター入稿
- ☆14日＝機関紙「読書推進運動」627号出来
- ☆14日＝「2018年度全国読書グループ総覧」概要・資料部分 入稿
- ・17日＝「上野の森親子ブックフェスタ」開催につき楽フレックスネットワークと打ちあわせ
- ☆18日＝2019年度第3回理事會開催。2020年度事業計画案と収支予算案、役員名交代を承認
- ☆18日＝「子どもの読書週間」ポスター初校出版。杉浦康平事務所にて、凸版印刷と打ちあわせ
- ・19日＝議政任仕長会に出席
- ・21日＝「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席
- ☆25日＝「子どもの読書週間」ポスター再校出版。杉浦康平事務所にて、凸版印刷と打ちあわせ
- ☆26日＝「2020年度事業計画」を内閣府に提出
- ・28日＝「子どもの読書の日」ポスターについてよたよたかずひこさんと打ちあわせ

編集部 & 事務局の
ひとこと

●ちよど1年前に発行した「読書推進運動」616号巻頭の、長野ヒデ子さんのことば。「国会で、子ども本の読み聞かせをする世の中が変わるような気がしませんか？（中略）国会の休憩室に、役所に、どこでも、いつでも読めるように「子どもの本」を置いて、大人が1日1冊でも読むと、子どもの問題にもっと深く真剣にかかわり、子どもを大切にすることに世の中が変わるのじゃあないかなあ？」。このことばが深く心に突き刺さる、昨今の状況です。

●「子どもたちの健康と安全のために、いきなり学校を休校とすることが、本当に子どもたちのためになるのか。学校を舞台とした児童文学作品には、4月からの1年間の子どもたちの成長をていねいに描いたものも多くあります。3月は1年間の成長を振り返りかけとなる大切な時期を踏むきっかけとなる大切な時期です。ある日突然、「明日からお休み」でいいのでしょうか？ たとえ数日でも、子ども、保護者、学校ほか、それぞれが準備をする時間は必要だったのではないかと思います。●また、今回完全に置いてけぼりとなっている、虐待、貧困などの要因で、学校がライフレインとなっている子どもたち。見えにくい存在ですが、児童文学のテーマとして成立している現実です。子ども本は、子どもたちのいまを知るガイドでもあります。今年の「子どもの読書週間」、ちよどと変わったブックリスト「政治家だったらこれを読め！ 必読！ 子どもの本」、作りませんか？（伸）